

Tourism 10th Anniversary

和歌山大学観光学部 10周年記念誌



Wakayama
University





Tourism
10th Anniversary

Tourism 10th Anniversary

和歌山大学観光学部 10 周年記念誌

目次

10 周年を迎えて 02

第 1 部 観光学部の 10 年 07

第 2 部 卒業生が振り返る「観光学部の 10 年」 19

資料編 31



ごあいさつ

2017年4月、和歌山大学観光学部は経済学部観光学科としてのスタートから数えて記念すべき10周年の節目を迎えます。創設以来、観光学に対する旺盛な学習意欲と志を持って全国各地から集う若者達の姿に刺激を受けながら教育研究に携わることができたことは、創設時からのメンバーの一人として教師冥利に尽きると実感するところです。

和歌山大学観光学部は、観光学の分野において学部から博士後期課程まで一貫した教育課程を有する唯一の国立大学の学部として、観光学会や関西観光教育コンソーシアムの設置に貢献するほか、日本における観光学教育研究の確立と国内観光系学部・学科の連携促進にも取り組み、さらには英 Surrey 大学や豪 Queensland 大学など観光学で世界をリードするトップレベルの大学との国際的な連携も推進しています。

このような取り組みが評価され、2015年度文部科学省における「大学改革に積極的な取り組みを行う大学を重点支援するための国立大学の機能強化」予算において、本学の「国際観光学センター（仮称）構想」が認定され、また2016年度から始まった国立大学第3期中期目標・中期計画においては、「観光学分野で世界トップクラスの大学から世界一線級の研究者を招へいし、教育研究の水準を高め、国連世界観光機関が実施する観光教育・訓練・研究機関認定（UNWTO「TedQual」）の取得等を通じ、アジアにおける観光学教育研究の拠点となる」という本センターの構想が、文部科学省国立大学法人評価委員会において「戦略性が高く、意欲的な目標・計画」に認定されました。

2016年度には、全学機関として設置された「国際観光学研究センター」において、上記のほか海外5大学から6名の研究者を特別主幹教授として招へい、彼らを中心とする10の研究ユニットに観光学部を中心とする和歌山大学の教員が学部・研究科を越えて横断的に参画するなど、まさに国際的視野で研究を推進する体制が整いつつあります。また、特別主幹教授の先生方には、2016年度の観光学部改組により設置した「グローバル・プログラム（GP：専門科目の全てを英語で履修可能とするプログラム）」における講義・演習など観光学教育の国際化にも寄与して戴いています。

さて、翻って現代社会には、国際的なテロや暴力によって平和と民主主義が脅かされ、いたるところに差別と偏見が渦巻いています。しかし、このような社会を変えていくことができるのもまた一人ひとりの人間の力です。その際に最も大切なことは、偏見や固定概念を排して、文化や生き方の多様性を相互に認め合う姿勢、つまり「diversity（多様性）」の視点を見失わないことです。体系的な観光学の学びや国内外の地域で繰り広げられたフィールドワークへの参画を通じて、多くの価値観や文化が共生し社会を成り立たせていることを実践的に学修した観光学部生を幅広く社会に輩出することへの社会的要請がいまほど高まっている時代はありません。

ローカル・アイデンティティ（個人の地域に対する帰属意識）を豊かに兼ね備えた、真のグローバル人材の養成に向けて、和歌山大学観光学部はさらに前進します。皆さまのより一層のご支援をお願い申し上げます。



和歌山大学観光学部第三代学部長
国際観光学研究センター長
藤田 武弘

観光学部創設 10周年に寄せて



和歌山大学観光学部は、2007年4月に設置した経済学部観光学科を母体として、翌年2008年4月に独立した学部として誕生いたしました。その後、2011年4月には観光学研究科修士課程、2014年4月には、観光学研究科博士後期課程が開設され、和歌山大学は、国立大学初の観光学の学士課程から博士後期課程までを備えた高等教育機関となりました。

観光学部及び観光学研究科設置の実現と発展は、県選出の国会議員の皆さま、和歌山県・市・各経済団体等多くの関係機関の皆さま方の多大なるご支援によるものであるとともに、多くの教員・研究者、観光教育研究アドバイザーボードの各委員や地域の関係者の皆さまのご尽力によるものと大変感謝しております。ご支援ご助言を賜りました全ての関係者の皆さまに、改めて心から御礼申し上げます。

観光学部設置当時は、観光学という学問領域は国内では目新しく、海外からの観光客も今ほど多くない時代で、国際的なイメージも確立していなかったように思います。しかし、今日では海外からの観光客の急増や様々な観光資源の有効活用など、毎日、観光に関する話題が尽きない時代となりました。将来的に本学の大きな強みとなり得ることを想定し、オンリーワンを目指して設置された観光学部は、歴代学部長の多大なる尽力と観光学部関係教職員の努力により、着実に歩み続け、10年の時を経て大きく成長したと感じています。

大橋昭一・初代学部長は、この分野の開拓者であり、多くの著作も執筆され、今なお研究者として活躍が続けられています。山田良治・第2代学部長（現理事・副学長）は、観光学研究科博士後期課程の設置に尽力し、人文社会系の分野の壁を低くし、理系分野との協力も行える複数分野の教員による教育研究の体制を確立しました。藤田武弘・現学部長は、都市と農村との交流・連携や多文化共生社会の実現を通して、真に豊かで持続可能な社会に貢献すべく観光学の発展に注力しています。

観光学は、観光に関連する基本的な原理を発見し、既存あるいは新しいモデルを構築することで、観光ま

ちづくり、観光物流、観光情報発信、観光資源の発掘、観光施設マネージメント、新しい観光コンセプトづくりなどに貢献し、人の人生を豊かに、そして幸せにします。

また、観光学部は、大学改革の中にあって、非常に先駆的な教育を実践しています。講義形式の座学とフィールド実践型学習（現場で実践しながら課題発見、問題解決に挑戦する）を統合した主体的に学ぶ教育となっています。また、観光という分野を通して、科学的な観点でのものの見方、物事の本質を見る力、設計・構築する力、提案力、コミュニケーション力を身に着けることができる文理融合型の教育プログラムとなっています。また、観光学は国境を超えた、非常に国際的な現象を対象とする学問分野であることから、専門教育を英語で学べるグローバルコースも設置できました。

この観光学部の理念・教育プログラムの先進性をパイロットモデルとして、他学部の改革に活用していきます。文理融合や英語での討論などを内容とする講義への他学部生の参加もみられており、その効果も期待できそうです。

2016年4月には、観光学研究の高度化を目指して先進的な研究活動を推進する国立大学唯一の本格的な国際的研究機関として、国際観光学研究センターを開設いたしました。

観光学部・研究科は、UNWTO（国連世界観光機関）の教育・訓練・研究機関認定(TedQual)の取得等を通じ、世界的に認められる教育研究プログラムとしてさらなる発展を目指しております。今後とも、ご期待ご支援をお願いいたします。



和歌山大学学長
瀧 寛和

観光学部創設 10周年への祝辞



さらなる観光理論の進展を！

和歌山大学観光学部が生まれてから、10年が経過しました。この間の出来事で特筆すべきことは、なんといっても海外からの訪日客が激増したことです。わが国の観光事情は、ある面で一変しました。これは、本学部が最初の卒業生を送り出したころに始まるもので、本学部は期待された役割を十分に果たしていると考えます。

しかし今後における観光の発展を考えるときには、何よりも観光理論のさらなる進展が不可欠です。「理論ほど実践に有用なものはない」といわれますが、わが国の観光発展にとって最も肝要なことは、なんといっても観光理論の進展であります。本学部は、創設以来この点に重点を置いてきました。この10周年の節目をさらなる観光理論探求の出発点とし、なお一層の飛躍を遂げることを期待します。本学部創設以来の関係者の一人として、ここに記念の言葉を贈ります。



和歌山大学客員教授・名誉教授
初代観光学部長
大橋 昭一

高まる社会的ニーズにどう応えるか

和歌山大学観光学部は、国立大学では唯一学部から修士・博士課程のフルコースを有する高等教育機関です。この度の「10周年」は単に数字の問題にとどまらず、大学院博士（後期）課程が完成年度となり、最初の博士号を認定する年度となったという意味で、さらにとくに研究の側面においてアジアの拠点を目指した国際観光学研究センターが開設されたという意味で、名実共に記念すべき節目の年となりました。

折しも、日本ではインバウンド観光客の激増などの下で観光への期待はこれまでになく高まっており、したがってまた観光教育研究に対する社会的ニーズが大きな高まりを見せています。一方、多発する武力衝突などはこのような方向性に水を差すものですが、「観光は平和へのメッセージ」（国連）という点で、観光教育研究の発展は世界平和の実現にも貢献する役割を持っています。和歌山大学観光学部の果たすべきこうした社会的ミッションを強く自覚し、さらなる前進を遂げていこうではありませんか。



和歌山大学教授・理事
第二代観光学部長
山田 良治

国際化時代にふさわしい学部として

和歌山大学観光学部が、創設 10 周年を迎えましたこと、後援会一同、心からお喜び申し上げます。

2007 年 4 月、経済学部に関光学科が設置され、観光経営や地域再生を学ぶ第 1 期生が誕生しました。翌年、国立大学として初めての「観光学部」がスタートし、オンリーワン分野とリベラルアーツを重視した教育のもと、国際社会の中で幅広く活躍できる人材を数多く輩出し、現在、様々な分野において多大なる貢献をしてくれています。

後援会といたしましても、大学における研究や学生の活動を黒衣的な立場で支援してまいりましたが、ローカル・アイデンティティを兼ね備えた、真のグローバル人材の養成に向けて前進する観光学部の更なる発展と、学生がより一層活躍でき、有意義な学生生活を送れるよう、今後とも全面的に支援・協力してまいりたいと考えております。

10 周年を機に、和歌山大学観光学部が新たな信念をもって、国際化時代にふさわしい学部として大きく発展することを祈念してお祝いの言葉とさせていただきます。



和歌山大学観光学部後援会 会長
坂本 安廣

和歌山から世界への架け橋を築く

記念すべき節目の年を迎えるに当たり、同窓会を代表して心より御祝い申し上げます。また、教職員の皆様をはじめ、我々卒業生を在学当時からご支援くださった皆様に厚く御礼申し上げます。

私が入学した頃から振り返ると、学部募集人数の拡大や、修士・博士課程の設置、国際観光学研究センターの新設など、「観光学」が一層の普遍性を持つようになったと感じられます。背景には、各方面での先生方の研究成果は勿論、学部の看板を背負って飛躍した卒業生一人ひとりの努力の蓄積があるのではないかと拝察される次第です。

とはいえ、学部創設 10 周年ということは、まだ 6 年分の卒業生しかいないということになります。同じ学舎を巣立つ在校生を様々な角度から支援したいという強い思いがある反面、社会に出て、まだまだ学ぶことに精一杯の同窓生ばかりでございます。引き続き、御指導頂ければ幸いです。

最後に、次の 10 年も更なる成長と発展を続け、和歌山から世界への架け橋が築かれていくことを祈念し、御祝いの言葉と致します。



和歌山大学観光学部同窓会 会長
西川 昌克

1 期生・紀の川市役所



和歌山大学観光学部 10 周年記念事業委員会

委員長：藤田 武弘

委員：山田 良治、尾久土 正己、大浦 由美

木川 剛志、金岡 純代、門田 充浩、野田 阿紀子

和歌山大学観光学部 10 周年記念誌

発行日：2017 年（平成 29 年）3 月 31 日

発行所：国立大学法人和歌山大学観光学部

〒640-8510 和歌山県和歌山市栄谷 930

TEL. 073-457-8547

デザイン：北村 元成、神堀 円花（北村ゼミ）

印刷所：中和印刷紙器株式会社



Tourism

10th Anniversary



和歌山大学観光学部 **10**周年記念誌

2017年3月発行



wakayama
univ.

Faculty of Tourism
Wakayama University

<http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/>